

天正記

八



天正記巻才八目錄



一

天子御くくわうれり

一

再徳くくわんれり

一

南園白飯守やう茂乃次

一

をん海流 林く喜れ事

一

たう園白飯守やうのりく志せい乃り

一

松長たけん志やうお初れり

一

山機乃志けん志やうのり

押通今換老百五百姓以来れ王なり

身一より清くわびうの室徳なり

身二より清くわびうの室徳なり

身三より清くわびうの室徳なり

身四より清くわびうの室徳なり

身五より清くわびうの室徳なり

身六より清くわびうの室徳なり

身七より清くわびうの室徳なり

身八より清くわびうの室徳なり

身九より清くわびうの室徳なり

身十より清くわびうの室徳なり

身十一より清くわびうの室徳なり

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.

右園白秀公の御ひよをたてしむ申人なるの
を公もいしぬやも坪より内は尾張一國さうさけ
なくまひりせられ候しあくるし治知のひひ
まてりししうい乃ゆらうぬらうと権中納言と
まんとあまうさ人廿六の年天下をよつたされ
くもんくくのくくぬおすくめら玖福將軍とあつ
りま中一されあひくふあひゆよまがあり義女百
餘人の川つをまけてうわひなのめなりすはくは
まると右園白秀公云 左いおつと甲をりともん

蒲くもんくくぬあさやう義乃次弟
て川つ治りのことくく水聖急へ出出なこれ因
もくよこれあふぬ人頭あてましくうらうら

志のあつを治申し治もくことくくゆぬさあつを
ゆいひとそまふくくんれとのめとつとついさせ
られ又あつとれを力力治志まんれされたりと
とさせられんとのくくあれものをあきくんとよ
まなり巻上ひもぬも治さげんあつうひあひささ
せられりもあつとつとつものもまのやとらふ中一
治まてうれ外あゆんまひまうらひ乃老るしきま
たん城りつりつめあんなして教百人らうさうん
園白奴子人まりれさけくともやうしはりく
くくあつあつやうはしきりつとつとあしし
とつとくくもんくくとのもんたんなあうろは
産りさゆなり

家々本村ひさられちとりのふとのたひのう乃ぬ
た人の内家人より越前乃國府中一の城より一郡
とおう愈らさしとらぬこれのひさらう換たひ
のうへ内家うこう仕ばつたさうとやつしおあハ
さうつてつをばく主人みうくつをう建なり一
め志よびしてさハ本村中一此町へつ人なとる
あついと一ものヌ目りなり金張とつとふは
総るこれぬものやもちこんつてはうれう
とくとこまやくう衆金さんとらと上つゆの
町人ややなりふとのの下人とめつとらもつはま
おつみうやと中一町人乃門くらなりとく
ゆらういもくつとせう中一まはれとて

そら金さんとまのりつとらゆかーとく
事つとつへふたつたふつとまりの
うくまやうん園白とのへらつとつと清いらん
をうあまらなり地乃まさととつとあられ一尺四
寸もさまうあんなふけつとつとよ上立つてハま
ふん内利志ゆん糸糸細きとせせうありむと清同
ふたこれ清立つておかせはあつとつととつと
とくく人めい且くつとつとつとつとつとつと
ひさいとあくばつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ろふまやうかのめなりてまゆ人たなのり
のあおいゆくやまんまよとくは魚園白飯をば
志の海くくろを波の舟しはさんしは波
あられを 又幾波の舟のすきなふりく
つらあさつふらやすふ波くささうしもきんて
清ひろいさ海波代ゆらあくるりまわたくいて
津ふ初まつるといふさふもひ かつきさ海
清産のあひさあれは清ゆつりれされ回本國
かんまんまて清んひと清まきうまはつたひ
あみままりし上とくろもつともぬこうらん
まてこれまらさくろくやうふして山のたふ
まのたきくろこの中まてむかんらんうやあ

安いのりなりとさふいはやあらくしるは水野大伝
まきあ三十町のふゆきをばうともたさひやうを
たんくまことうとまやうさひやまへかう清
うんれけりれまきうせとまきう 又福田年
七月二日上あじよだつししあ

らんふさやうは京

とひ田左衛門将りん

うしたたふ悲の射

石田治甲乃か囃

園白飯へ清のまきれ笑さう海くく清ひりんのま
さいせんさくあまのり たいりり清部あり
れたあかんれ七月八日園白秀次こう伏見うま

下大さんあふりつらふのしつかりおまめと付られ
毛くしふさう山上人野田長門守大膳頭清供
係つあられ記列高野山清うんらよとつし山登山
なりあふその志也小姓十人はかりおきさうれ也
せひとせりくれやつへをありらまいあきさうれ
たす たいわう乃清をんころふ事し志也と
せんやとこふら下と漢とわうありてうりまする
そうついかをいであさしひとくよけん人清ふ
らひぬひれ人清を清ま志やういふとまのたう
せさうゆんまり

たのわういあ年のむりしるま目本派つひまけを
清さんらふれされこれこの的たうて救う衆の合

我もうすそとさうまげん物よとーもうとうこくこ
わりなりお清せつあられせんこれらんは清ふ次
中あけくうらふあうすうれうへ三つんう國
まけたなむらうらりふきりさまの清まうと
もつて清代清おさのら清ゆん今日よつらるまそ
四けり中乃ちらんらうせんひ清さをふせらう
軍清うまさこいおがせ付られ清志ひくいうたひ
ふあーくをこいあま人と清せいものなされは
るり物もつてこれなりうるかあう清こやうか
清かたりせん上下まがくおをりそよまやう
うまるとりしうらうらうらまはひかと立て
名あらんや平川をうらうらと板代入りおをうらの

しつたり せんくくらのハぬらんらう
これなくも返り たいのうのゆつり
うけさせ治む天下ぬそう乃びうくせんふあう
きくはさ一清をんと治患とあらう一うさきす身
二ふ意懸うつていてこれり一第三う一懸きやう
つり治ゆさりりよこ一ぬみぬもさうれなりうれ
なたりふ町をむりとしつたたもあする久し
うくす天うおう海一ふ事

西念役

白井俊後

回条といめんこそはけく浦切同くきい一回条

しつ志つひつこむる

つふあう一するえようめうう扱きひ

此計みらうされせんともうんや

さそくあられらありま海や

くさうひ大橋うこ ころの二そんゆんまそ孫と

まり本村ひららち 橋津國又うとよ大門さう

まやういさり目らたくへ垂山美金子又百

まい眼子二千枚う一あきられぬまり

各のさうしう乃乃うりんふの川あびり

子うくおきさ 同おなり

まん流れまゆ

わくを安ん

身越ふた歩り

池田俊は

つけた海老

本下六せんれ

通産めは向も清でいもふれくむがふを中
ふ木村ひこられちさの三宗うもようく
邪よく結人うり月と所をる一年越おの村
中一もそみうやう門子けにひさ老とくは兼小
つりくくじこひとらちら目乃おなり支天さう
たう海一まらう七月十又日る

福徳左米門大夫

かくけりたる乃すけ

つけた保与守

此念役こそ

高望山でいけんちるうとて

園白との

伊けり地これ山次中

一妻よ山女とんと清も所ハ國をくらこれ
とやうのるり

二妻一山田云十麻師まれくうの友回麻城下

それ一やうのいなり

三妻よりぬくの万地清まきうと乃れ有回良と
くこれとやううい

右三人衆もくえもくぬぬいとやくまこれい也

四妻よりとうゆくさうさう西堂まんく西目り

いりよ門てあのとれりんたう仕懸さるてひ

くものやいふはさよらんを中へうけ帯帯くけしを
さうきゆいよの次等りり
ふらん目も面白秀次つね見れさういふ家よを
刀亦とよよささくわうのゆうつまりゆく遠くしら
乃のそゆついでやくりついでをなとえゆい國はく
とらさうれつくとまりあきるりとつをた題の下
知さ中へおはれあよらちかうらやうひあひ
かな事しあれならちかとい中へくの中へらら
あ
さうはくさうのん乃清志よむいさよ
と云ちくつとよはさうさやうせい清さうた
つとまゆひさ天下れせいじ成志致るう程の
あうさゆあきさうんあり中へて

落書り

ゆんれはあま向れたあ乃らにたれとあれ成せり
志やう面白やいふとやうふうあは清まなとよ
侍ありりさうはとよ七月八日あんうくあひえひ
ふへ女ともとめへ清まられ清ありのまれえれあん
ゆんらう雲階四より馬とつれりさうれちく精と
清強初なりあや中へまら山あおぬさけ志やう
まらんあんのあをいうんや中へ上は地つ、ふま
我まくるりと上ささそちくさうたぬまうつと出
坊今とてうやうひさせられあまうさくあうら
あしさうさうのん清あおさうりさめさか
あんちれ中へいぬ志くと入ぬれあうらつ

西も所々ふよのいさるるりたり清のるやめののり
且ひいばふまじりる清をこくしくを山に
あすてく清のゆみおひらうの山にうしてせこまやう
きん及くゆくとこ目月いさる清のりらと目しう
お月さん七月八日高野さんへおとうさんよし
ひらうのふのひとや

又六月十八日水野れ土神へおまりののやう
産頭一人まつらひあはれなりありさ海うてれ
ありきりよらうさうれうれあはこうとくお
鬼杯のこくをまり園白飯の理よせめられてこが
まけり清のりい七月十八日おやさんせいしん
ちよとつくうれこくおまけのいれこゆくさ

りしくのまはせんのこくおまかきて天をむら清
あるのりり

くせんこく秀次まやうのわの政お三列をこく
Pさんをお義女うらさんま三人いれわりのせい
しつれおすらく中一三条お原る二十るおあよ
お月かりあくうまをゆいまりうれ中お東を
清まて九ちやく四方るうくといけり清つま
くせんこく秀次まやうのわくひとあひさおすん
とあひさあちらひまのとうとられい清てうあひ
のちお三十六人あせいといおけり乃おのこく
うらひおまをたひかふなとねありらゆこよを
うくもけてさもまう海一かおやもかあこなり

けしやうらうとぬのさくこころさうのむきへれく
たやうなりうつりうさる世の中やふのふり
うふき列うとて今所さいのむとハこれる夏
のやうけくあやけまのれりあーれ終今さうた
たとぬんびくもれりうさりさそあけけりあてま
うつものつとまれくこれそ海くたさけりもさく
ぬかりうの老乃まうりわさ望うたとつらまも夏
ううー西ういれけりんと車一あま三人四人はく
ひふのじぬ悉むまきあまきうをみあけとらめの
やまきあしをきうてうれ母んやのひふとふ緒
中ーとひりきけく三てうかけへひふはきて車
しりひふおろしちくうま乃内ふなりる百人あ

法へし面と見すうさり

一 大がくきくさるまれーい
一 いられみだい ぼくといぬむとめ 三十四

うき世とくむれーあらくと悉ゆへ
一 伏見あーいふつれてうゆあ

一 おき 義滋國 竹長与志妻の じとめ
一 十八わのきとこれあ

一 世れ中しも羨乃うき世所らうとて
一 やあしろくうあくろしとこのまん

一 一れうの 尾張國 山口松堂 じすあ
一 十九あさういれあ

一 さしあうのまねのつる乃たあなれと

のこらぬ方よりうきしりうき

一 中一畑言 橋津五 小瀬五 じと光 三十四

らうそのの松のこ名とたつゆき

南無あみと仏のこ怒うひうれて

一 おけまのこつこ 田家五 じと光 十七

書ゆんふうを救力を白川に

すくむけうきしゆともうりまん

一 全のす乃をのこ奥列もろもとのむすめ 十九

今らふのけしひれらう井ののもや

みくうひうれてうへうゆ

一 河あせら あまここのじと光 三十一

とりせらここのや松とこれまら

今をかりた入りゆきそとくまら

一 おのこ このくお日以聖下野じと光 廿二

うのあせぬりんくふ今れとくるまの

うへおひうれてみたをそのまん

一 河國 おり望のく小大渚新丸赤のじと光 廿二

國へ入りゆきこれあられそあはうのみ

くもきと月そうへうゆ

一 とよ光 河國橋田けう左赤のじと光 二十六

よ光とさそとまやのこ急と急ともしよ

今入りんかろ力とやままん

一 河され 同らふ 武蔵赤の じと光 十二

とさけくもまよここの頭げ車

もまめみた併の奔りひらきて

一 ねり 遊の國 ところきまら尾ひを免 廿二

まえしくのみくさいあまらふあしうんと

もまめみと併と一し急りみる

一 ときく 時乃ちみくさひやうにじとめ十六

まきあえく見すれおひ風かよーこそ

少のゆく思入りやれりまん

一 おまき さいとうききあしとめ 十六

このまつとれたすけたまんやうやとけ

一 おお 京流と来ぬ用古川 三由善じとめ廿四

あひうめてせと久しくこのゆりさうそ

もやきうくゆくまこのちやうとん

一 おま 一のみまひれはじすめ父の尾張 十二

もやきうとまをうりて十三れ

はしりとりりてちくぬとらまん

一 花梨門代 ころ内思本美三戸母 三十八

ころころしをみる目くれく白河乃

みたとたのくくへうゆけ

一 湯門代 ころ善流らんいりや 三十二

色りんとう今頃さああのころのゆき

さしこくこのめみた乃ちやうとん

一 柳まのふ見字橋 じとめ 四十二

うやらりのまをほくなくまこのころ

カハ小くまりりばりて泣き
一ひのちのちカハくみ流ん乃女屋くら

ひししちちあうー向ふしあぐらくの
みくれちやうや冷ししりるち

一おおゆあ国ちのちのちのちのち
廿四

ちくらくれ足れ流たえんそまぐら
生きしんすくちりすくのりり

一れこかぬひれまますまさい助むすめ
十九

こほれくちあがりけうこくちうは乃
指とりこまぎりのあししおけく

一か将 越前三の 廿八

せうけくのちる乃あしや神のまて

一わーまけ船るー系てうりまん

一おこちや 廿九

しーあらやんちちちり乃春をまて
ちちあさりか乃家にあうらふ

一おたの義流乃くは平左忠りん 廿九

流れさけをうめ月ハまゝありて
うまーむあやちへうらめ

一むさひ 廿四

ふひてあふふのちのちとち川の
月と海ともううーちこそめ

一れ有 京ちのち大京三ちち 廿一

ぬらゆをてらまそよ山乃ほちめ

月詠ももろいもの

一 お城

とくぬりてはなぬりふたのたぬり

ふ目達もうのまんたりのもの

は外れましくあつたありのつれうためとみる事

つうならりしころのびびひうや波うさきう海

まのぶとる力もろ勢もてくくくくくくくくくく

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

てさもろくくくくくくくくくくくくくくくくく

びびびびびびびびびびびびびびびびびびびび

うううううううううううううううううううう

すすすすすすすすすすすすすすすすすすすす

つこぶほさけのむねきとむつとらとよのんもあて

れんししとのとりよあつたあつたあつたあつた

の老のひまどひのたてのり二つくくくくくくく

みまいたてなげおすすすすすすすすすすすすす

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

とふらぬくハてんさうおろろーかするり
一松なるたんちやう一やうの力か上どころーこの
アの大夫を佐とらるとたて兼たんのころまりを
とらるとちさな事一誠心の中におしくみこも
乃大夫と天下れりーとなすアかーれれめや
あまこれさいまやうこそ清水まけのとーうして
人救とよせ 二条公平の清くへとらとま
くーうけんのぬぬ清けりさせ同清令前六をん
階ぬこれ又河を心 もぬーゆこの大夫さ
安持清守と中一仁いさ進んをりまへられちゆと
乃をんあうとくもんじするさけなくとらー
とくーひさしれーろと宗天下乃ーのう我なり

まんうくいれうん清く織田うつさのすけ信長と
清入清ありて天下保らとこれく乃ありひと天下乃
をわとーし家より信長城との足乗れとら乃大
和國うん國とこれいさわうして大板と信長は
敵中一これさみさうと内ありをん清とすれ大板
や松也一足のみやと立とらーとさみわ別と
の城へうつありのちやうありーや志悲の佐
父子とくこの時日とらうのすすのありのちやく
胃林田城此すの敵とらうけりさるほく子え年
まうなりとさものともつてとあくふさう乃大か
らんりーの大佛とんとらうハすらむくひとら
まらと来て十月十日の秋月日とらへす時あ

とまらぬ者やういし一口きましくてん志の
よ火とつゆのやき死と疎りやういひをひそらり
まらるり一義法蘭國さういとう山嶽る三ハ元来山城
乃國うい思まつたことやうて一カバとのまら
法別へ海うと下長井彦を赤のをたのむわうこう
すうるういふととつあられカ上なりさうは
けくうのをひ減きりなり井新九良や名赤らん
海いの老とも歌やるりういお中いい けうさ
しうとるるらうりい新九赤とのみまいのとら
お義なり清わたんのゆ人もつてぬふまたり
あうまうさういとう山あるる三とふれりうれぬぬ
子らうハ赤とのとそいふまやうあふこれあり赤も

はうなとびこりうらうらういひやういりし
まら其は人ハ赤とのとびこらうとらういひ
あうせとののくぬ城とたりとらゆんあふとの
いふやうん諸著りい云 一うとまらびこと
しうをそとのおけいびういをわう今い山ある
とついで七まうらういふらうい
并れけいり一なん新九良二りん孫せらう三男
赤平次三人あまわり惣お人乃うふうやうい老
あすやういひゆふくうてゆんさうなら相なり
たうきんあを意乃うい見もくらもいさうやうい
いま相いひぬ身二人いこらういさうい
これやういまやうい云けん赤平次をいり

また吾輩乃をけふなり一則友とすくめられあれど
ふりてれくくをうつおぼりてそうもやう成なるく
うううりそつひいひあひの無念おぬ知十月
十日よりさく病とりまゝ人引入るいといふ
ゆひ一又子五人なりといふいふいふいふいふ
十一月廿二日 山あろる三山下へくさられ寝
しやぢら乃長井隼人のすけと申合ふひやう時私
まろるりり二人才又たへめんしし一言もたさ
るり併入来らん叩くやち井ともつて申すはくり
らくくいこくくみとせとらういほきやうといふあの時
りりとして併見まいむとて船回むる新九ややへ
二人なりうまうらこえくさなり長井終つふのまゝ

月とむくきやうといふいとてとらや所りけふと
といてあらまいとせとらういほきやうといふあの時
よれ物ふれりいなのさくまほうううつひとぬえ
りらと産るの取返しをさりあや又右無傳
のすのふりうらう一年らふれりくおとらう
まゝうまん中へ右乃越申おくる処よらんり
あふこるりうふりなりを二のい成たて人教証よ
せ回方町れすもちいひとりのいとくいふうい
志いなし山もこの機りなり大海とあり山町く
と云らん中におひまの死時とらあひなりあく
中一は馬うはふられあう若ともハみか新九らう
しく魚もやのりまねなりとらうれあひとらうらん

人救済すくはまうとすなりこれふの明幸い
なり山此三戸外にたりいふあまのりたうらん
やまへとつとあらむとて方とんれ海しし海津乃織田
つうのよけ信者もる云ひこまてんあひこ合
とて海津乃川ひこ乃大海と越太赤戸
し海東越坊加うとるりつこつて海らんとす人
らん家まてやふれ四海を許してはる飛渡り
つとせりをつれりをつらまの田丹外田う比
あくふのぬおへびつつて新九赤人数とつとる
三もふとる魚くらつてつりひつとれ一甚合我小
竹ありたうらん六百はよりまん海渡りするりて
中一のわのまうらあしつこりこるまひてうくは

しうらん物乃うすよてすううつとるりつとる
ととつと戦きりつとるのつとるらん
河らりとやうきにつとるのつとるらん
うくれとつとるよ又二甚やると新九赤多人救やつと
川とつとる人救ありおらん九らうまん中とつとる武
老一足進とつとるこれハなるや甚染つと中とつとる也
あまとつとる心ま志海人志海の中とつとる紫田南内
とつとるこのこれつとるひつとるつとるやつとる
ゆとつとるひとつとる紫田つとるつとるつとる
やうふひとつとるあまとつとるつとるつとるつとる
せとつとるんくは入せとつとるらんらんきよとつとる
きをけつとるつとるつとるひをちとつとるしとつとるせん

と野いありて思ひくれもたうさありさる程よ
も井忠左衛門山城を三よわここのひさうさんお
太刀と行い上りてふ山城取つてさうはらんと
りよおへ小まきさ原を何いこさこり山志あをを
とたふ切取ししよこひをととる忠さ忍りんをば
のせうあのはあふとそもは城をいつく乃さになり
新九良さうつせんお勝てくひの志のたん乃おへ
山志ありのくひりらささうり付方よりこをさお
原こるり城たう城さうとてさるりこれより後新
九良さんつとるふ新ひさう落あし子さんあと云
若おやのさひとふれえれさちくれくひとまひて
かうとならるり今の志ん九らうを若や乃さひと
あてちあさあさうさあなめさひしひ一糸
あじまおはあう子と申してこれのりあるとれよ
さうさうさうさうさあありまらぬらととなきれさ海
くひさうまいともひま面産のこ海子産のこ
さたさふたうひやつをさるひゆよりしけ井り
らくこ三人ひやう死りりるさきうひらんれあう
よちうへを詠ちんのもらりもな城うのれく
る前代みえんの事あり

天心記巻中八終

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

天竺師者人飲

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

Handwritten line of text.

110X
323
9